



kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・
劇団創立者 眞山美保 生誕100年

The letter of Shinseisakuza

新制作座だより

<http://www.shinseisakuza.com>



2023 AUTUMN vol.24



自然豊かな劇団本部の裏山にて

爽りの秋を迎え美しい紅葉が楽しみな季節となりました、皆さまお変わりなくお元気でご活躍のことと存じます。

長いご無沙汰お許し下さいませ。新制作座だよりを手にもされる懐かしいお顔を思い浮かべ、変わらぬご友情とご支援に深く感謝申し上げます。

「泥かぶら」

泥かぶらの故郷

—2023年5月17〜19日

愛知県刈谷市
総合文化センター・アイリス

コロナ禍中の昨年春、『泥かぶら』の上演休止を劇団員会議で決めました。

10月、3年に1度の鑑賞を慣例にしている刈谷市教育委員会を訪ねてその旨を報告した所、市の上層部はあくまで『泥かぶら』鑑賞を熱望されました。決断を迫られた我々に力を貸してくれた友の存在もあって、市内6校の中学生を対象に6回公演をお引き受けすることになりました。2月、新しいキャストで稽古が始

愛知県刈谷市 市内中学校6回公演



まりました。

劇団員で脇を固め、若き俳優達が懸命に『泥かぶら』に挑み、中学生と向き合いました。6校それぞれ違う反応に私は驚きました。コロナ対策は、各校の判断に任せられていることもあり、座り方や諸注意も様々でした。2幕の泥かぶらの踊りに手拍子が湧きおこったり、休憩になると詰めていた息を「うわぁ」と吐いたり、物語の世界に共に生きていてくれたようです。

待ちに待っていたアフターコロナ、刈谷市で5年振りに『泥かぶら』の幕が上がりました。万感の思いを込めて報告申し上げます。

愛のしずくの詩『泥かぶら』は、2024年全国巡演を再開いたします！

(記・小津和知穂)

今こそ『泥かぶら』

本年5月、愛知県刈谷市で、ついに『泥かぶら』の中学校芸術鑑賞会が復活しました。

新型コロナウイルス感染の世界的拡大の中、予定されていた多くの

公演が延期、中止の決定が相継ぎ悔しい思いをしました。自分の将来や今の社会全体に、不安を抱く青少年等に一条の光を照らしてくれる『泥かぶら』を、何時か必ず提供できる日を待ち望んでいました。そこに、刈谷市教育委員会・学校現場の諸先生等の御尽力により、難しい課題に対処しつつ、今こそこれが必要だという決意を基に実行の決断を下されたことに深く感動を覚えました。

新しい時代に相応^{ふさわ}しい新しい配役を組み、一つの舞台を構成し創り出していくべく稽古を重ねて臨みました。個々の技術は以前のもの域に達していなくとも、それぞれの必死な心意気は観客の生徒さんに伝わったと思います。何度も何度も思いもよらぬ不運に遭遇しながら、弱音を吐きながら、自信を失いかげながら、もがき苦しみ生きてゆく泥かぶらの姿を自身に重さねて観ていったのだと思います。

「自分の顔を恥じないこと、どんな時にもにっこり笑うこと、そして人の身になって思うこと」

この言葉の意味を少しずつ理解し実践しながら、人間として愛する



愛知県刈谷市公演 5年振りに復活



愛知県刈谷市中学校公演

この喜び、信じることの安らぎ、人の為に働くことの愉しさを感じて生きてゆく、この素晴らしさに気付いてくれたと思います。

終演の緞帳幕が降りてゆく中、湧き起こった大拍手に確かな手ごたえを感じ、子どもたちの感謝の気持ちが伝って来ました。こちらこそ「ありがとうございました。お別れしたいと思いました。」と、刈谷市を去り、明日は、やはり5年待って下さった東京の私立学校の講堂で『泥かぶら』を上演いたします。一期一会の出会いを大切に、初心を忘れず心を尽して参りたいと思います。

後日、生徒の皆さんから実に多くの感想文が劇団宛に送られて来ました。一人一人の感性の素晴らしさに感動し、極一部を抜粋して御紹介します。

(記・斉藤平)

生徒さんからの感想文

● 他人からどんなこと言われても自分を信じて続けていけば、いつかは自分の当り前になるので、やっぱり継続が大切なあと思



いました。新しいクラスも多くの当り前が増えるよう頑張ります。● 今後の人生の中で、泥かぶらのことを思い出していききたいと思

● 人間は見た目だけじゃない、中身が大事なんだと実感しました。僕もおじいさんが言っていた三つのことを意識して暮らしたいと思

● 自分もより一層美しい人、継続できる人、主体的に考えられる人になりたいなと思

● 私も周りの目ばかり気にするのではなく、自分がどうするかということ

● 美しくなるためではなく、楽しいからという理由で働いていたのが良いと思います。● 私は、美しい顔とは感謝を忘れない優しさだと思

「記念公演」

真山美保生誕100年記念

—愛と平和への祈りを

込めて—ご報告

—2022年11月〜12月—

昨年8月、真山美保作詞の合唱曲を軸に稽古が始まりました。

魅力ある出演者アーティストを迎えて、懐かしい歌の数々が蘇りました。

11月に宮城県大崎、仙台、山形県尾花沢。12月に東京都八王子。各公演地のプログラムに地元の人達が出演。星槎仙台学習センターの生徒の皆さんと校歌『星のいかに』を合唱。『青年よ勇気を持って』で市長さんが特別出演。カーテンコールで『花笠音頭』の唄と踊り・・・等々。大いに客席を沸かせて頂きました。

(記・小津和知穂)



真山美保生誕100年記念 —愛と平和への祈りを込めて— 2022年12月21日 東京都八王子市公演

新制作座は「認定NPO法人」を目指します

—これまでのあゆみ—

1950年10月、劇作家 眞山青果の長女 眞山美保（当時27歳）を中心に、横村浩吉・草村公宣の3人で創立。1952年初演の眞山美保の処女作『泥かぶら』（文部大臣奨励賞受賞）の半年間の九州公演の結晶として1956年、杉並区西武新宿線井荻駅近くに初の稽古場を建設（敷地面積180坪・木造二階建て）。

その後も劇団員は増え続け僅か5年で手狭になり、当時茅葺屋根の農家が4軒ほど点在した現在の元八王子町の土地（約1万坪）を、旧厚生省の厚生年金保険積立金の還元融資を受け購入。1964年、劇場・お稽古場・俳優の宿舍・眞山青果記念館・大道具製作所・倉庫等を建設、財団法人新制作座文化センターが設立されました。

財団法人新制作座文化センター（定款より）
 全ての人々に演劇の楽しさ及び表現活動の大切さを伝える演劇を主体とした各種事業を行い、もって文化・芸術の振興を図るとともに、子どもたちの健全育成に寄与することを目的とする。

その頃、眞山美保の戯曲は、『泥かぶら』を除く4作品が映画化され、著書「日本中が私たちの劇場」は、その年のベストセラーになり、数々の演劇賞を受賞。劇団員は100名を超す大所帯になっていました。

大都市に集中しがちな演劇の舞台を全国へ届け、「青少年健全育成チャリティー公演」を企画、客席の15%～20%を少年院・少女院をはじめとする子どもたちへ無料ご招待を実施、地元経済界の理解と支援を力に全国巡演を続け、「日本中が私たちの劇場 一人々の中で人々と共に—」の考えのもと歩んで参りました。

そして『泥かぶら』だけでも、上演回数15000回・観客動員数1000万人を数えるまでになりました。

自らを座付作家と呼んだ眞山美保は、2006年3月83歳で旅立ちました。

丁度その頃、全ての財団法人が公益財団か又は一般財団かを選択する法改正が施行され、財団を解散。運命の出会いに導かれ、星槎グループの仲間になり、2009年12月、新たにNPO法人劇団新制作座を設立。（財）新制作座文化センターは星槎高尾キャンパスへ引き継がれ、広域通信制の星槎国際高等学校・八王子学習センターになりました。

教育と芸術が融合した地域交流の拠点としてのユニークな活動と、新制作座として主体的な芸術創造活動を続けています。

これからの夢・そして課題

なぜ、認定NPO法人を目指すのか、少しお話をしたいと思います。

◆「地方では何も観ることが出来ないんです」

少子高齢化と若者の都市部への人口流出が進み、地方においては益々芸術に触れる機会が失われ、経済的困難を抱える子どもたちが多く格差は表面化しにくい問題があ

ります。

東京も1都市という考えのもと地方へ文化と芸術を届け、子どもたちと未来を語り合う全国公演の実現と子どもたちへの公益事業の継続のために、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

認定NPO法人とは

「NPO法人」のうち、※実績判定期間（直前の2事業年度）に一定の

基準を満たし、都道府県など所轄の

官庁の「認定」を受けた法人は、「認定NPO法人」（認定特定非営利活動法人）になることができます。

認定NPO法人制度は、「NPO法人」への寄付を促すことを目的とした制度です。

「認定NPO法人」への寄付は、様々な税法上の優遇をうけられるため、寄付が集まりやすくなります。寄付した個人への税制優遇（所得

認定NPO法人に認定されると

何ができるようになるか

- 全国公演の実現
- 公益事業の実現
- 社会的信頼の向上

サポート（寄付）する方のメリット

- 地方公演と子どもたちへの無料ご招待を支援
- 税制の優遇（個人・法人共に）

税、住民税、相続税、譲渡所得税）や寄付した法人の税制優遇（法人税）が受けられます。

認定NPO法人は、より高い税制優遇を適用するために「より客観的な基準において、高い公益性を持っている」ことを判定された法人であり、社会的信頼が増します。

※パブリック・サポート・テスト（PST）について、重要なお願い

パブリック・サポート・テスト（PST）とは、広く市民からの支援を受けているかどうかを判断するための基準であり、認定基準のポイントとなります。

皆様のご理解と、実質判定期間のご寄付を宜しくお願い致します。

パブリック・サポート・テスト 広く市民から支援を受けているか実績判定

1年間
一人3,000円以上の寄付
×
100名以上

×
2年間
実質判定期間（令和5年・6年）

「歌舞伎鑑賞」

眞山青果作 織田紘二演出 『新門辰五郎』

— 令和5年
八月納涼歌舞伎 —

歌舞伎座で『新門辰五郎』が上演されるのは実に47年ぶり、青果作品の中でも上演回数が極めて少ない。多数の登場人物とその人間関係の複雑さに演出は苦勞する。

今回その困難な仕事に挑むのが織田紘二氏、国学院大学卒業後国立劇場芸能部に勤務、20代で三島由紀夫最後の助手を務め、眞山美保との出会いは30代。非常に優秀な助手で、演出のダメを逐一メモしていて稽古終了後それを簡条書きして渡してくれたのは、後にも先にも彼だけだと後日眞山から聞いた。

1979年、『元禄忠臣蔵』の初日、主役の八世 松本幸四郎丈が病に倒れて代役の遣り繰りで国立劇場は混乱した。結果舞台は見事に再生され評判も上々であったが裏では上演時間短縮を巡って、眞山のスタッフと劇場の間で否応の遣り取りが続き、遂に織田氏が叫んだ。「僕



©松竹

は美保先生の弟子じゃない。国立劇場の人間だ！」以後27年間、国立劇場のレパトリーから全ての青果作品が消えた。然しこの断絶に終止符を打ったのも織田氏だった。2006年秋、『元禄忠臣蔵』の全編通し上演が国立劇場で、演出 眞山美保、補綴演出 織田紘二の陣容で3ヵ月に渉って敢行されたのだ。演劇史に残る名舞台、将に快挙であった。残念ながらこの年の春、眞山は既に他界していた。

さて、今回の『新門辰五郎』は的確な台本改訂と当を得た配役で引き



©松竹

締まった舞台になった。「力わさだ！」と織田氏は語ったそうだが、言い得て妙、この芝居は役者も裏方も捻り鉢巻きの力業で臨まなければならぬ。斯くして猛暑続きの八月歌舞伎座、昭和に書かれた反戦劇に、令和の客席が沸き返った。

（記・込山虔二郎）

眞山美保 歌曲集 発刊のこと

これまでの、新制作座の活動の歴史を思う。どのシーンを切り取っても、そこには歌が溢れていた。まさに歌は、私たちにとって生活必需品であった。その湧き立つような毎日の中心に、眞山美保先生が居られた。そんな日々を伝えたい、そして皆さんにも、その仲間に入ってもらいたいと……。その想いが熱くふくらんできました。

劇団の創造活動で体験した、ほんの小さなエピソードを……。劇団歌の一つになっているクラ・ポポロ(人々の中で、人々と共に)実は一番しか歌詞がなかった! 50年近く前、劇団の創作勉強会で



原 泰賢

の事。僕の出品曲、『風船に手紙をのせて』は都合で一番しか歌詞がなかった。それを美保先生に聞いて頂く事に。冷や汗…。そしたら、何と先生は、二番〃人々の役に立つなら歌い続けよう〃さらに30分後、〃人々の勇気を世界に伝えよう、新制作座は出かけます〃と三番を付けられ、……。劇団の歌になっていた。こんな風にして育てて頂いた恩情は、僕、生涯のものとなり、今があります。

まずは「新制作座だより」で繋がっている大切な皆様に、この「眞山美保 作詞・訳詞によるコーラス付き歌曲集 一第一集」発刊の計画をお伝えしたいと思いました。どうぞ完成を、お楽しみに。

(記・原泰賢)

「法要」

創立者 榎村浩吉先生 23回忌法要

—2023年10月9日—

未だかつて無い程の猛暑も和らぎ朝夕は秋の気配が感じられる様に成った10月9日。故榎村浩吉



眞山青果作『坂本龍馬』より 武智半平太役 榎村浩吉

先生23回忌を行う事が出来ました。本来なら文京区小日向の眞山家菩提寺、日輪寺にて行う処ですが御住職の御提案で「遥拝」形式で行いました。(※遥拝とは墓前に参列できない時、御住職の読経の時間に合わせ自宅にて参加者をご焼香をする法要形式の事)

法要の後、眞山先生、先輩諸氏との嬉しい思い出、榎村先生の楽屋でのエピソード等々、語りだしたら切がない程の色濃いあの日の思い出が皆の口から出て来ます。

榎村先生の愉快的なエピソードの

中で必ず出てくるのが『泥かぶら』公演での一駒。一幕の出番が終わり開放されたのでしよう、出番がまだ有るにも関わらず衣装を脱いでしまわれたそうです。その為、二幕の途中で太郎兵衛さんを引っ張って出てくる為に袖に入ったおぼさん役の俳優は、先生の支度ができずまで大声で太郎兵衛を探し回る芝居をし続けたそうです。その間、舞台上ではどの様にして居たのか聞くことは出来ないかもしれませんが想像に難く有りません。出番が終わると解放感を感じて居られる姿は

御一緒に旅公演をした時にもよく見ていましたのでさもありなんと思いました。

今では榎村先生の舞台を観る事は叶いませんが、その姿は私達の心の中に有ります。どうかこれから私達を見守って居て下さい。

明日10月10日は劇団創立記念日、劇団のこれから、残された作品をどう伝えて行くのか、創立75周年に向けて語り合い確認しあう良き一日と成りました。

(記・山形久人)

「和装文化の『朱鷺・toki-1』

『泥かぶら』が生まれた 原点に想いをはせる

—2023年7月17日—

カ
ラリと晴れた7月「海の日」、長野県岡谷市の「岡谷蚕糸博物館」に行ってきました。

きものジャーナリスト 中谷比佐子さん企画「日本茜・日本紫根染織三人展」。天然の茜と紫が生み出す美しい染織作品の数々。気の遠くなるような試行錯誤の上に表現されている世界。こんな美しい色が宿

されてる自然てすばらしい。そしてそれを引き出せる匠の凄さを感じました。

「岡谷蚕糸博物館」は、日本の製糸業の技術や文化や歴史が余すことなく展示されているとともに、製糸工場が併設されていて、実際に稼働している様子を見ることが出来ます。写真や動画ではわからない、熱気や匂い、工女さんの指先から繭糸を操る神技のような滑らかな指先の動き。そんなことを間近に見ることができて、とても感動しました。本当に高い技術が必要で、千手観音



「岡谷蚕糸博物館」左から 小津和知穂、中谷比佐子さん、松原ふみこ



目の前で工女さんが繭糸を操る

さまのようによくつも手が見えるようです。

かつて日本の経済を支えた養蚕と蚕糸業。そして展示の中に、それを支えた若き工女さんたちの写真を見つけました。

劇団創立者 眞山美保の代表作、戯曲『泥かぶら』は、1952年第二次世界大戦後の愛知県紡績工場で働く少女たちとの心の交流から生み出された物語。懸命に働く少女の横顔の美しさから『泥かぶら』は生まれたのだと。

そんな繋がりを感じ、ご縁に導かれたいい旅となりました。

(記・松原ふみこ)

新制作座 和装文化
朱鷺
toki

和装文化の「朱鷺・toki-1」は

新制作座の俳優たちのために、眞山美保が昭和30年代より選り抜いたきものコレクションがここに残されています。国内外の公演で舞台衣装としても活躍してきました。

この魅力ある日本の伝統文化と昭和の名工たちの、現在においては貴重な技術と見事な手仕事の品々を眠らせておくのは忍びないと、和装文化の「朱鷺・toki」と名づけ、貸し出しをはじめとする事業を立ち上げました。

四季を通じたきもの(振袖・留袖・訪問着・付け下げ・色紋付・おしゃれ着・小紋など)を、初心者から、お仕事で必要な必需品という方まで、トータルコーディネート提案をいたします。また、プロのスタイリストやスタジオ撮影、インバウンドのお客様へのおもてなし、イベントの企画、販売なども行います。

きものについて何でもお気軽にご相談ください。

新制作座公演日程

(2023年10月25日現在)

2023年

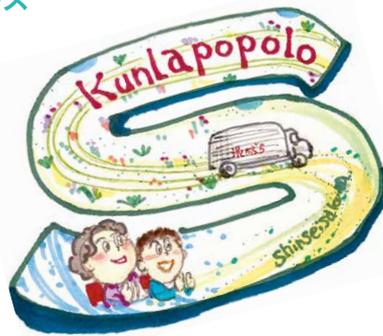
- 11月 2日 ◆ドラマティックリーディング『泥かぶら』『八郎』
星槎名古屋中学校
- 3日 ◆ドラマティックリーディング『泥かぶら』
千秋公民館主催
「文化の日—親子で芸術鑑賞会」

2024年

- 2月 6日 ◆ドラマティックリーディング『泥かぶら』『八郎』
星槎小田原学習センター
- 3月 4日 ◆演劇『泥かぶら』
八王子市立城山中学校
- 4月29日 ◆演劇『泥かぶら』
長野県佐久市 会場:佐久平交流センター

2024年・計画中の巡演コース

- 5月 茨城・栃木・群馬・長野
- 6月 宮城・福島
- 7月 愛知・岐阜・四国
- 8月 東京
- 9月 大阪・岡山・広島
- 10月 新潟 北関東～東北
- 11月
- 12月 関東



小学校・中学校・高等学校の芸術鑑賞会、実行委員会主催の町おこし事業、各種団体の周年行事等、是非、お気軽にお問い合わせください。

新制作座 上演作品

- 演劇『泥かぶら』 眞山美保 作・演出
プロローグと3幕7場
上演時間:2時間10分
- ドラマティックリーディング『泥かぶら』『八郎』他
上演時間:45分～90分
- 愛と平和への祈りをこめて
—眞山美保の歌と朗読の世界—
上演時間:60分～100分

令和4年度、みなさまから頂きました新制作座へのご寄付を元に、眞山美保生誕100年記念公演(会場:八王子市芸術文化会館)の舞台に、市内の子ども食堂、親子30組60名様を無料ご招待いたしました。感謝を込めてご報告いたします。

困難を抱える子どもたちへ、励ましとエールを送る活動に今後ともご支援を賜れますよう、お願い申し上げます。

— * 同封の郵便振替の用紙について * —

認定NPO法人を目指すための
ご寄付をお願いいたします

同封させていただきます振込用紙に必要事項
(住所・氏名・寄付金額・日付)をご記入ください。

※4、5面 関連記事

News

眞山美保生誕100年記念事業

『泥かぶら』の作者

眞山美保 作詞・訳詞による コーラス付き歌曲集—第一集—

新制作座フェスティバルの舞台で歌われた曲、訪中公演で愛された曲、アイルランド民謡、劇団オリジナルの愛唱歌 他、眞山美保作詞・訳詞の楽譜をまとめ初の出版を来春に予定し、準備をすすめています。

作品の誕生秘話、内弟子しか語れないエピソード等も掲載。今も各地の元青年団のメンバーが口ずさむ「青年よ勇気を持って」のように、みなさまに愛され、歌い継がれることを願ってやみません。

【候補曲】

- マイ・ウェイ —私の道—
- 大いなる中国(日本題)
- 大海啊故郷
- 青年よ勇気を持って
- アニー・ローリー
- 祖国を傷みて
- 星に願いを(ピノキオより)
- 夏の名残のバラ
- 虹の彼方(オーバーザレインボー)
- ダニー・ボーイ(アイルランドの魂)

次回の新制作座だよりにて、購入方法をご案内いたします。楽しみにお待ちしております！